

発行 令和元年(2019)6 月

http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bunka_rekishi/bunkashiryokan/shiiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

企
画
展

広報ちがさき にみる 昭和と平成

主催 茅ヶ崎市教育委員会

茅ヶ崎市文化資料館

(担当: 須藤格、松隈 雄大)

共催 寒川町

はじめに

都道府県や市区町村が定期的に広報紙を発行し、住民へ行政情報や地域話題を伝えるという現在の仕組みは、戦後全国各地に広まったとされています。

2019 年で『広報さむかわ』は 70 周年を迎え、『広報ちがさき』も創刊から 68 年が経ちました。2 紙のこれまでの記事を振り返ると、昭和から平成にかけての各時代の世相や人々のくらしの変化が見えてきます。

本展では、世相や人々のくらしの変化を、『広報ちがさき』の記事を紹介しつつ振り返ります。

2019 年 6 月

茅ヶ崎市教育委員会

自治体広報紙とは

全国の自治体(都道府県や市区町村)の多くは、行政情報や地域話題などを掲載した広報紙を定期的に発行しています。このような自治体が発行する広報紙を、ここでは「自治体広報紙」と呼ぶこととします。

旧茅ヶ崎町が発行していた『茅ヶ崎町報』などのように、戦前に自治体が発行していた事例もありますが、現在につながる自治体広報紙の仕組みが普及したのは戦後のことで、GHQ が日本の民主化政策の一環として、広報の理念や技術を導入したことがきっかけとされています。

戦後に創刊された自治体広報紙は、その時々住民の関心事や生活に必要な情報を記事に取り上げてきました。70 年近くにわたって蓄積された記事は、昭和から平成にかけての各時代の世相や、地域の人々のくらしの変化を記録した貴重な資料ともなっています。

茅ヶ崎の広報紙のはじまり

茅ヶ崎の自治体広報紙の歴史は、戦前の町制時代にまでさかのぼります。第 4 代茅ヶ崎町長の新田信(1885 年生～1959 年没、1921 年～1932 年在任)は、1928 年に町制施行 20 周年を記念して、「町民の一致を求めんには先づ吾町一般の政治を町民の前に展開し、其施設を知らしむるを以て第一とすべし」として、『茅ヶ崎町報』を創刊しました。これは翌年『町治の

たより』と改称されました。

現行の『広報ちがさき』は、1951 年 4 月に『茅ヶ崎市報』の名称で創刊されました。創刊号には毎月 1 回発行と記載されているものの、実際は不定期で、当初は 3 か月に 2 回程度の割合で発行されました。1959 年 4 月の第 71 号から『広報ちがさき』に改称され、1967 年 4 月の第 155 号から月 1 回の定期発行に、1991 年 4 月から月 2 回発行となりました。

展示記事リスト

本展で紹介した記事が掲載された号の発行年月日・掲載頁・記事の見出し・展示キャプションのタイトルは以下の通りです。記事見出しの表記は出典に従い、旧字は新字に改めました。

番号	発行年月日	頁	記事見出し	展示キャプションタイトル
1	1951 年 4 月 25 日	1		『茅ヶ崎市報』創刊号
2	1953 年 4 月 10 日	3	お米の配給方法 三月一日から改正	米の配給方法の改正
3	1953 年 8 月 20 日	1	職場と家庭から伝染病を追放 赤痢は防げる手洗いの励行で	手洗いで赤痢の予防を
4	1953 年 12 月 20 日	7	恐るべき覚せい剤の害毒 全国 で七〇万人が中毒	覚醒剤の乱用問題
5	1954 年 1 月 20 日	4	小額通貨の使用禁止と引換	小額通貨の通用禁止
6	1955 年 4 月 5 日	1	小出村（大字堤、芹沢、行谷、 下寺尾）茅ヶ崎市に合併	小出村の合併
7	1958 年 5 月 15 日	2	メートル法お買物表	メートル法お買物表
8	1958 年 12 月 20 日	3	ガス火入れ式挙行さる	ガスの導入
9	1971 年 3 月	4	見て見ぬふりは非行のもと	青少年のシンナー乱用
10	1971 年 3 月	8	大切な郵便は受箱の設置で	郵便受箱設置のお願い
11	1971 年 3 月	8	多いダイヤルミス 通ずる前に 切る人も	ダイヤルミスに注意
12	1971 年 12 月 10 日	1	ゴミとガラクタ あと始末を考 えよう 質・量の再検討をして	ごみの処理問題
13	1971 年 12 月 10 日	3	年賀状に電話番号の記入を	年賀状に電話番号を
14	1972 年 3 月 10 日	1	主婦へのサービス ガラクタ毎 月収集へ	ごみの不法投棄問題
15	1972 年 7 月 10 日	1	これからの道路利用 助けあっ て生きる社会	生活の変化と道路
16	1972 年 7 月 10 日	5	旅館、ホテルの宿泊は まず非 常口避難路を確めて	非常口と避難路の確認を

番号	発行年月日	頁	記事見出し	展示キャプションタイトル
17	1974 年 1 月 10 日	2	石油、電力の節減を 日曜のドライブは控えて	石油・電力の節減を
18	1974 年 2 月 10 日	1	消費生活を見直そう 相談窓口は市商工観光課	消費生活の見直し
19	1975 年 3 月 10 日	1	とんだ迷惑路上放置 臨時自転車置場の利用を	放置自転車対策始まる
20	1975 年 11 月 10 日	1	ゴミ問題を考える 忘れられた地域のモラル	ごみと資源
21	1976 年 2 月 10 日	4	加入電話 5 万台に 茅ヶ崎電報電話局	加入電話 5 万台に
22	1976 年 9 月 10 日	2	市でコンピューターを導入 今月からか動開始	市役所でコンピュータ導入
23	1987 年 4 月 10 日	5	62 年度の各種検定試験	商工会議所の検定試験
24	1989 年 4 月 10 日	5	フロンガスの使用を規制	フロンガスの使用規制
25	1993 年 8 月 15 日	1	「広報ちがさき」おかげさまで 500 号	『広報ちがさき』500 号記念
26	1995 年 2 月 1 日	1	阪神大震災の救援金にご協力を	震災救援金の受付
27	1995 年 6 月 1 日	3	横浜駅刺激臭事件解決にご協力を	横浜駅異臭事件
28	1996 年 4 月 1 日	7	パソコンに挑戦	パソコンの普及
29	1996 年 8 月 15 日	2	病原性大腸菌「O-157」を防ごう	O157 を防ごう
30	1997 年 7 月 1 日	1	浜降祭 今年から 7 月 20 日に	浜降祭が海の日開催に
31	1999 年 3 月 1 日	1	地域振興券交付事業 いよいよ交付・使用開始に	地域振興券の交付
32	1999 年 12 月 15 日	1	西暦 2000 年問題へ対応するため「危機管理計画」を策定	2000 年問題

メートル法 お買物表				
	従来の 買い方	メートル法での買い方		
重	25g	100グラム (約26.7g)	2.4ヤール	
	50g	200グラム (約53.3g)	2.5ヤール	
	100g	400グラム (約107g)	2.6ヤール	
	150g	600グラム (約160g)	2.7ヤール	
	200g	800グラム (約213g)	2.8ヤール	
さ	5分	150分 (約40分)	2.9ヤール	
	10分	300分 (約77分)	3.0ヤール	
	15分	450分 (約116分)	3.1ヤール	
	20分	600分 (約159分)	3.2ヤール	
	25分	750分 (約202分)	3.3ヤール	
液体	1合	200 C C (約1.1合)	3.4ヤール	
	1合升	1.1フットル (約5.5合)	3.5ヤール	
	1升	2.2フットル (約11.1合)	3.6ヤール	
	客	1合	200立方センチメートル (約1.1合)	3.7ヤール
		1合升	1.1立方センチメートル (約5.5合)	3.8ヤール
1升		2.2立方センチメートル (約11.1合)	3.9ヤール	
液体以外		1合	200立方センチメートル (約1.1合)	4.0ヤール
		1合升	1.1立方センチメートル (約5.5合)	4.1ヤール
	1升	2.2立方センチメートル (約11.1合)	4.2ヤール	
	植	0.5ヤール	50cm (約19.7インチ)	1.3ヤール
		0.9ヤール	85cm (約33.5インチ)	1.5ヤール
1ヤール		95cm (約37.4インチ)	1.7ヤール	
1.5ヤール		1m40cm (約55.1インチ)	2.1ヤール	
2ヤール		1m90cm (約74.8インチ)	2.5ヤール	
長	2.5ヤール	2m (約79.1インチ)	2.9ヤール	
	3ヤール	2.5m (約98.4インチ)	3.3ヤール	
	3.5ヤール	3m (約118.1インチ)	3.7ヤール	
	4ヤール	3.5m (約137.8インチ)	4.1ヤール	
	4.5ヤール	4m (約157.5インチ)	4.5ヤール	

(明日からといわず今日からメートル法)

さいごに ～「くらしの記憶」を保存する～

我々を取り巻く社会環境は日々、大きく変化し続けています。衣食住においては、快適さや効率性、意匠性^{いしょうせい}が求められたものへと変わりました。そしてITの革新、資本主義の高度化、グローバル化の進展、さらには少子高齢化の進展などに伴い、生活様式の多様化が進んでいます。

本展では、『広報ちがさき』の記事を振り返りながら、昭和から平成にかけての世相や茅ヶ崎の人々のくらしの変化について、その一部をご紹介しますいただきました。

都市化した茅ヶ崎は、現在も変化し続けています。地域の人々の「くらしの記憶」を記録・保存し、次世代に伝える役割を担っていくことが、茅ヶ崎市文化資料館の「地域の博物館」としての重要な役割であり、責務の一つであると考えます。

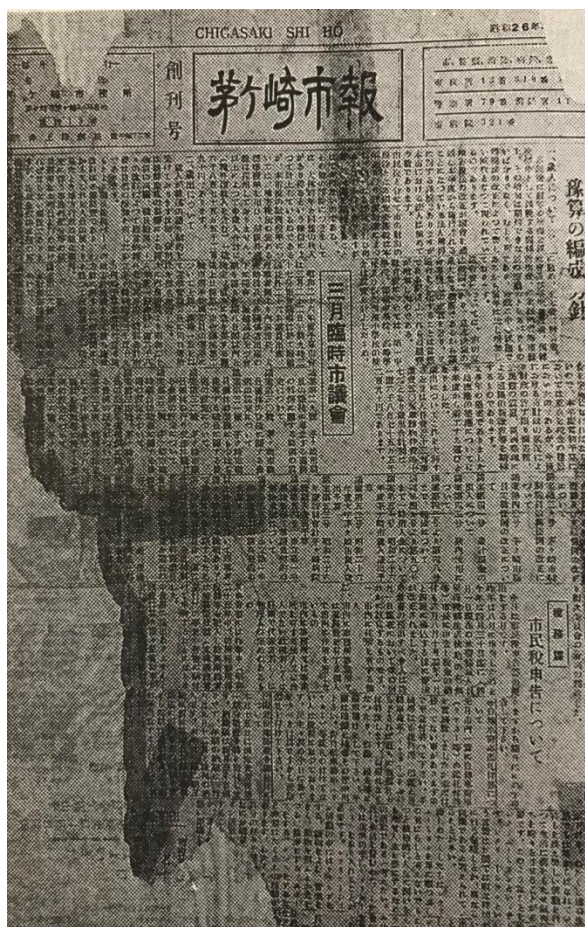


写真2 茅ヶ崎市報創刊号(1951年4月25日)



写真3 ちがさき市報24号(1953年8月20日)

【参考文献】

- ・茅ヶ崎市 1981『茅ヶ崎市史4 通史編』
- ・茅ヶ崎市 1982『茅ヶ崎市史5 概説編』
- ・津金澤 聡 ほか 2003『広報・広告・プロパガンダ』^{つかなさわさとしひろし}
- ・国枝智樹 2013「東京の広報前史—戦前、戦中における自治体広報の変遷—」『広報研究』17